



2019年4月25日

各位

会社名 ヤフー株式会社
代表者の役職氏名 代表取締役社長 川邊 健太郎
(コード番号 4689 東証第一部)
問い合わせ先 常務執行役員
最高財務責任者 坂上 亮介
電話 03-6898-8200

当期および前期の連結業績の差異に関するお知らせ

2019年3月期（2018年4月1日～2019年3月31日、以下「当期」）と、2018年3月期（2017年4月1日～2018年3月31日、以下「前期」）の連結業績の差異について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 当期と前期の連結業績の差異

(単位：百万円)

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に 帰属する当期利益
当期実績 (A) (2019年3月期)	954,714	140,528	123,370	77,828	78,677
前期実績 (B) (2018年3月期)	897,185	185,810	193,177	134,412	131,153
増減額 (A-B)	57,528	△45,281	△69,806	△56,584	△52,476
増減率 (%)	6.4%	△24.4%	△36.1%	△42.1%	△40.0%

2. 差異の理由

当連結会計年度の売上収益は、9,547億円と前年同期と比べて575億円(6.4%増)増加しました。これは、会計方針の変更に伴う影響があったものの、主に広告売上収益や、アスクルグループの売上収益が増加したこと、ならびに前年度第4四半期の(株)ジャパンネット銀行の子会社化が寄与したことによるものです。

営業利益は、売上収益の増加や第1四半期の子会社株式売却益があったものの、販売促進費、減価償却費及び償却費および人件費が増加したこと、当社の子会社であるアスクル(株)において36億円、シナジーマーケティング(株)において23億円の減損損失をそれぞれ計上したこと、ならびに前年度第1四半期にアスクル(株)の保険金収入があったこと等により、前年同期比で減少しました。また、税引前利益、親会社の所有者に帰属する当期利益については、上記要因に加え、当期よりサービスを開始した「PayPay」への積極的な投資の結果、183億円の持分法投資損益を計上したこと等により前年同期比で減少しました。

以上